



「お互いさまの地域を 育むために」通信

余市町生活支援体制整備事業 講演会

**お互いさまの地域を
育むために 2023**

**参加料
無料**
(定員50名)

地域における助け合い・支え合い活動について
簡単なゲームを通じて体験してみませんか？

講師
函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競氏

主な公職
公益財団法人さわやか福祉財団北海道ブロック
インストラクター・リーダー
NPO法人 NPOサポートはこだて理事・事務局長
など

日程 令和5年10月14日(土)

時間 13:30~(受付:13:00~)

場所 余市町中央公民館
(大川町4-143)

定員 50名
申込締切:10月6日(金)

お申込み・お問い合わせ
余市町社会福祉協議会
TEL 0135-22-3155 FAX 0135-22-3684

主催 余市町社会福祉協議会 余市町民生委員協議会
後援 余市町老人クラブ連合会 余市町地域包括支援センター 余市町在宅介護支援センター
余市町認知症のケアを支える家族の会 北海道新聞余市支局

皆さん、こんにちは。余市町社会福祉協議会、生活支援コーディネーター吉野真弘です。

年度末ということもあり、何かとお忙しい日々を過ごしているかと思いますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

さて、当事業では昨年10月14日(土)、余市町中央公民館において「お互いさまの地域を育むために2023」と題しまして講演会を開催しました。

その時の様子をこの通信で報告します。

講師には、昨年度に引き続き、函館市地域交流まちづくりセンター・センター長の丸藤 競(きそお)先生をお迎えし、「これからは始める、助け合い・支え合い活動を考えよう～助け合い体験ゲームを通じて～」と題してご講演を戴いたほか、公益財団法人さわやか福祉財団が作成した「新・助け合い体験ゲーム」を使用して、参加者の皆さんで助け合い体験ゲームを行いました。



当日は、天候にも恵まれ、42名の方の参加がありました。丸藤先生からは、“これからは人口減と独居高齢者の増加、前期高齢者の減少と後期高齢者の増加という高齢化第2幕が始まる状況であること”、“高齢者の健康は地域の資源・資材になること”、“高齢者が健康でいられることは誰もが住みやすい街になること”、“余市町の現状と今後のこと”などについて具体的な数字やデータを示しながら、ユーモアを交えお話していただきました。



丸藤先生からのお話のあと、参加者の皆さんで「助け合い体験ゲーム」を行いました。

参加者の皆さんをランダムに1グループ4～5名に分け、支援してほしい事項が書かれたカード180枚を机上に並べ、1人3枚ずつ取って順に掲げ、手伝える内容なら支援者として挙手。これは地域で解決できる問題。一方、手が挙がらなければ、その内容は自分たちではどうにもできない課題ということになります。参加者を一つの区会に見立て、誰がどのようなことで困っていて、近所で助けられる人は誰なのかということを考える機会をこのゲームで体験することができました。



地域の中で助け合い活動を行いたいが、「何から始めればいいのか？」と戸惑うこともあります。

まずは参加された方が住んでいる地域からこのような活動が広がって行くことを願っています。

参加された皆さん、ありがとうございました。



地域で話し合うきっかけに・・・



社会福祉協議会では今回の講演会で使用した「新・助け合い体験ゲーム」を2セット（1セット3グループ分、計6グループ分）購入しました。

お住まいの地域で、地域の課題を洗い出し、その解決策を住民同士で話し合いませんか？

ご希望があれば、無料でお貸しします。

また「私の進行でよければ」（※）担当させていただきますので、興味のある方は社会福祉協議会（☎22-3156）までご連絡ください。

（※）講演会の中で“お互いさまの地域を作る魔法の言葉＝私でできることでよければ・・・”と丸藤先生がお話しされていました。